

新刊紹介

結論を先に言ってしまうと、ポスト京都時代のエネルギーシステムの主役は分散型発電だということになる。ではそれはなぜなのか。

バイオマスをはじめとする再生可能エネルギーは化石燃料や原子力と異なり、エネルギー密度が小さい。したがって、大規模集積型では対応できない。そうであれば、むしろ小規模な設備を多数展開していくという考えの方が合理的だ。

だが、現実の日本は系統電源が優位に立ち、分散型発電のインフラ整備が遅れているというのが現状である。こうした方向をいかに転換していくのが、ポスト京都時代に求めら

れている。

現実にはコスト面などの課題があり、再生可能エネルギーによる分散型発電の整備はそうたやすくはないが、次善の策としてコージェネレーションを先に普及させておくことは可能だ。また、こうしたサビ

スにカーボンオフセットビジネスを加え、事業ポートフォリオを充実させることも必要だろう。

豊富な事例紹介を見ると、地方での展開にも大きな期待が持てるし、日本経済もまた、中央集権的ではなく分散型になっていく、そういったことすらも考えられる。

エネルギービジネスに関わる方々にとって、新たな時代の事業展開を考える上では示唆に富む著作である。

(猫)



本紙で連載し好評だったシリーズに大幅に加筆修正して刊行された。